

函 体 沈 下 計
P A - 5 M G - B
取 扱 説 明 書

株式会社東横エルメス
東亞エルメス株式会社

2011.08.08

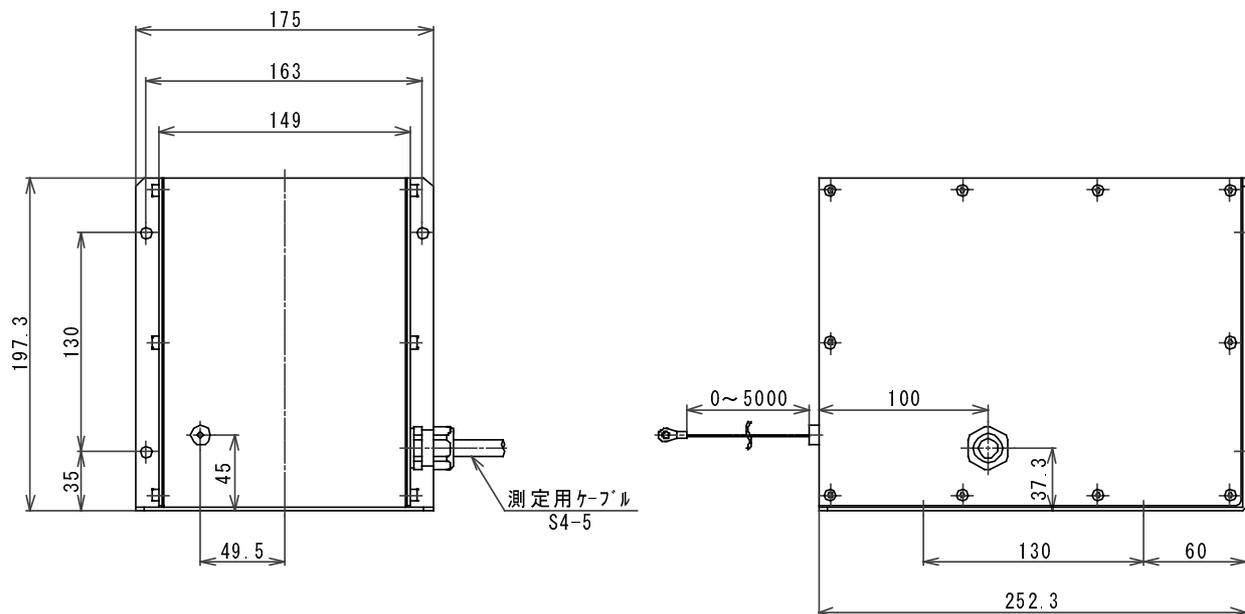
1. 仕様

型式	PA-5MG-B
測定範囲	5,000 mm
定格出力電圧 (R0)	2 mV/V 以上
定格出力ひずみ	$\pm 2,000 \times 10^{-6} \text{st}$ 以上
直線性	$\pm 0.7 \%R0$ 以内
ヒステリシス	$\pm 0.7 \%R0$ 以内
許容過負荷	100%
許容温度範囲	-10~+40 °C
最大印加電圧	10 V
入・出力抵抗	入力 : 350 Ω、出力 : 350~850 Ω
絶縁抵抗	DC25V にて 500MΩ 以上
寸法	W240×D135×H196mm
質量	約 4.0kg
ケーブル	S4-5 (0.5mm ² 4心、シングルシース)
ケーブル標準長	3 m

※ 変換器はポテンシオメータですが、ひずみゲージ出力となっています。

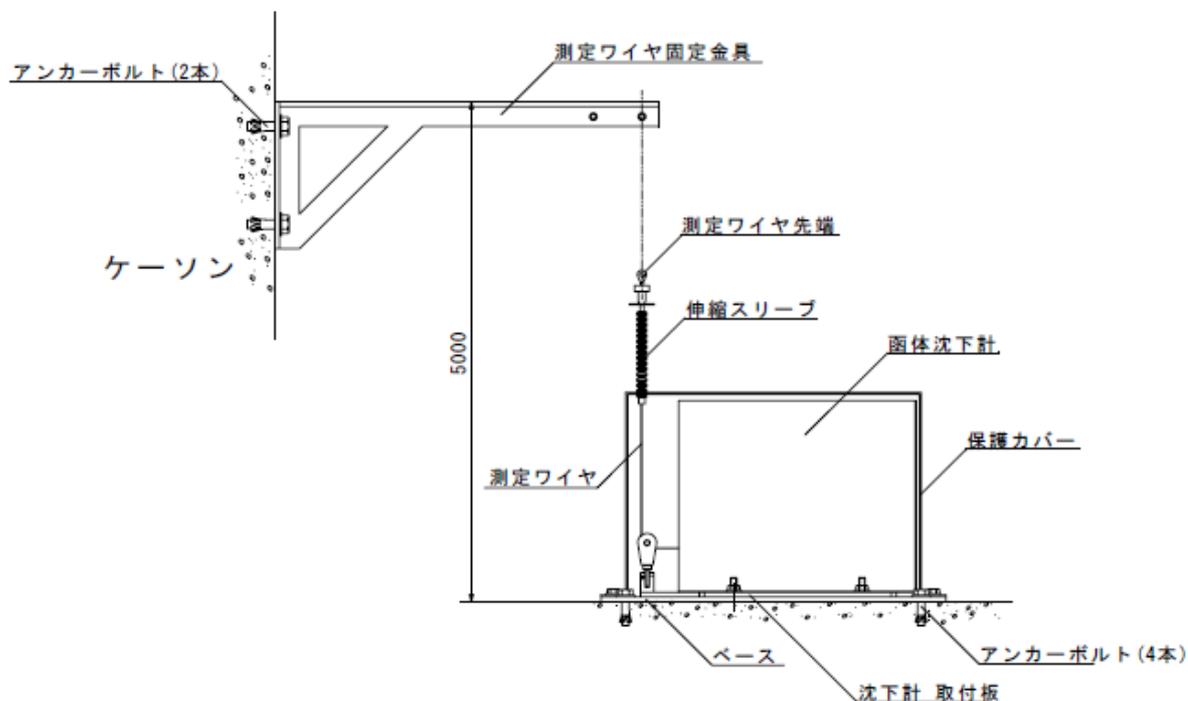
2. 外観

概略の外観寸法を下図に示します。

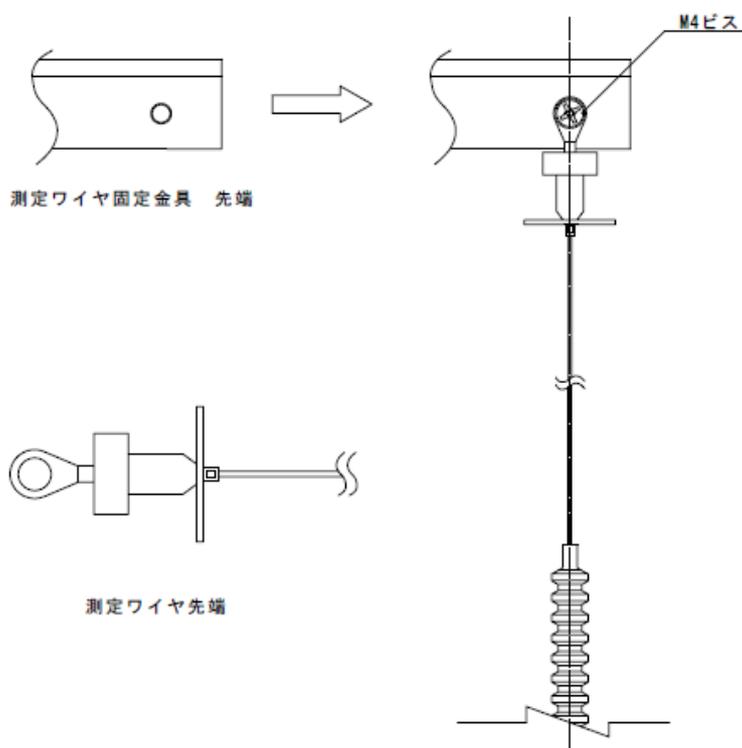


3. 取付方法

- (1) 検査成績表と製品番号を照合して下さい。
- (2) 指示計器などで作動の確認をして下さい。
- (3) ケーブル接続を行う場合は、事前に出力値と絶縁抵抗値の測定を行って下さい。
- (4) ケーブルの配線は、本工事時に損傷を受けないように防護等に配慮して下さい。
- (5) 函体沈下計を、設置位置に仮置きします。
- (6) 測定ワイヤ固定金具(別売品)を、函体沈下計から5000mm以内の位置に仮置きします。



- (7) 測定ワイヤ固定金具のワイヤ固定穴の真下に、函体沈下計カバーのワイヤ通し穴がくるよう、測定ワイヤ固定金具または函体沈下計の位置を調整します。
(ワイヤ固定穴に錘の付いたヒモをぶら下げると容易に調整できます)
- (8) 調整した位置で、函体沈下計(ベース)をアンカボルト4本で、測定ワイヤ固定金具をアンカボルト2本で固定します。
- (9) 測定ワイヤ固定金具に測定ワイヤ先端を取り付けます。



- (10) コンクリート打設時には、測定ワイヤにコンクリートが付着しないよう ワイヤ固定金具からビニールを被せる等の保護を行って下さい。

4. 測定方法

- (1) ケーブルの接続方法は、入力⊕が赤色、入力⊖が黒色、出力⊕が白色、出力⊖が緑色としていますので当社以外の指示計を使用する場合はご注意ください。
(2) 測定時刻とその時の工事内容を正確に記録しておくことデータの検討に有効です

※ご注意: 当社指示計を使用した場合、ワイヤー引張りで出力値は、プラス方向を示します。

5. 計算方法

- (1) 計算式

$$H = (M - M_0) \times f$$

H : 変位量 [°C]
M₀ : 初期値 [× 10⁻⁶st]
M : 測定値 [× 10⁻⁶st]
f : 校正係数 [mm / × 10⁻⁶st]

- (2) 計算例

M : 1820 × 10⁻⁶st
M₀ : 8 × 10⁻⁶st
f : 1.000mm / × 10⁻⁶st

$$H = (1820 - 8) \times 1.000 = 1812$$

したがって変位量は 1812mm となります。

ご不明な点は弊社製造部までご連絡下さい。
TEL 046-233-7715 FAX 046-233-7878